

平成 30 年度 第 1 回志摩市地方創生審議会 議事概要

日 時 平成 30 年 8 月 3 日 (金)
10 : 00 ~ 12 : 15
場 所 志摩市役所 4 階 401 会議室

出席者 (順不同・敬称略)

- (1) 審議会委員 (16 名)
牧谷拓、柴原行正、内田清隆、岩崎恭彦 (会長)、齋藤平 (副会長)、舟戸由美、上村千将、清水久史、尾間正美、米澤尚之、東川清加、岩崎かほり、井上摩紀、寺口寛治、前田勲、長濱彰則
- (2) 事務局 (5 名) 三橋哲雄、澤村博也、東桂一、北山亥之生、米奥宏規

傍聴者…8 名

事項書 1. あいさつ

【岩崎会長】

平成 29 年度は総合戦略の中間値が出る年度であり、この実績等を踏まえて事業の廃止等に至っている。

実績及び効果検証についてチェックと多様なご意見をいただきたい。

事項書 2. 自己紹介

[各委員の自己紹介]

【事務局】

傍聴席を設置し公開していることや撮影や録音等の了承について確認。

委員 20 名中 16 名の出席により会議が成立していることを報告。(志摩市地方創生審議会条例第 5 条第 3 項)

志摩市地方創生審議会条例第 5 条第 2 項の規定に基づき、議事進行を岩崎恭彦会長に依頼。

事項書 3. 議事 (1) 平成 29 年度実績報告及び効果検証について

【岩崎会長】

議事 (1) では、6 つの政策分野ごとに各担当課がまとめた実績報告及び内部でのチェックを経た効果検証の報告を事務局が行う。その後に行う質疑の際は、各政策分野に関する質問や意見に限らせていただきたい。

議事 (2) では、現委員の任期では最後の審議となるので、皆様から志摩市の地方創生に寄せる期待や提言について発言いただきたい。

《政策分野 1 「ひとの育成」について》

[事務局説明]

【岩崎会長】

この分野は長い視野に立って種を撒いていく事業となる。多くの事業が継続して取り組んでいくという判断をしている。

[意見・質問なし]

【岩崎会長】

審議会としておおむね適正と判断したいがよろしいか。

[異議なし]

《政策分野2「ひとの確保」について》

[事務局説明]

【岩崎会長】

この分野については、28年度に制度設計に取り組んだ事業が多く、29年度に実施あるいは30年度に実施する事業が多かったと思う。事業を実施しながら見直しも同時に進めていくものが多いと思う。

【長濱委員】

「2-5 I J U（移住）ターン促進のための奨学金返済補助事業」について

補助額の上限が20万円は年額か。13人の方が利用をしているが、上限20万円に13人を乗じても決算額と合わないのはなぜか。

【事務局】

年額である。2,553万1千円の内、2,400万円が基金に積んだ額となり、毎年300万円を8年間とみている。基本的には、300万円の範囲内で予算化をしていくこととなる。

【長濱委員】

目標値が延べ100人以上となっているが、予算額から目標には至らないのではないか。

【事務局】

人数的には15人程度をカバーできればと考えている。補助の条件の中に30歳までを対象年齢としているので、100人以上になるということとなる。

【長濱委員】

目標値の書き方が年間目標と勘違いをされてしまうのではないか。記載について検討してほしい。

【事務局】

記載について検討し、わかりやすい表示にしたい。

【岩崎会長】

目標値は、32年度までのものではないのか。今回の総合戦略の最終年度は32年度であるため、この年度までの目標値であると認識していた。8年間実施しての目標値との説明であったため、整合性が取れていないように思う。見えるような形で整理してもらう必要がある。

【前田委員】

「2-7 家主と移住者のためのリノベーションによる空き家活用等事業」について

1世帯あたり200万となっているが、鳥羽市では100万円だったと思う。200万円でもなくはないと思うが、村のような地域の額であるように思う。若者から見て志摩市に魅力がないと思っているからか、予算的な都合でこの額としているのか。

額としては大きすぎると思う。この額を出せるのであれば、額を抑えて、高齢者も対象にしていたらどうか。静岡市では元気な高齢者の移住について取り組んでいる。若者を呼び込みたいのは志摩市だけではない。高齢者へも目を向けるべきである。100人単位で移住してもらわないといけないと思う。

【岩崎会長】

担当課が都市計画課の事業となるので、審議会での意見を伝えていただきたい。

【長濱委員】

「2-7 家主と移住者のためのリノベーションによる空き家活用等事業」について

実際の応募数は把握しているのか。申請をしたかったが、予算枠の都合で申請できなかった人はいないのか。200万円を100万円などに額を下げた多くの人にいきわたるようにできるのではないのか。

予算額と目標値が乖離しているように思う。目標値を実現していくのであれば、相応額の予算措置が必要であるのではないのか。

【事務局】

実際の応募数は把握していないため担当課に確認し、いただいた意見についても担当課に伝えたい。

県の資金を一部入れているため、予算措置の額については、制度的な部分の関連もあるかもしれない。単純に額を減らして対象者を増やすことが可能かどうかについても確認をしたい。

【齋藤委員】

予算額と目標値が乖離しているように思う。目標値を実現していくのであれば、相応の予算措置が必要であるのではないのか。例えば鳥羽市の場合、応募者が増えてきた時に補正予算で対応している。志摩市の場合も応募者が多く出てきた場合は、このような対応をされると思うがどうか。

【岩崎会長】

柔軟な対応をお願いしたい旨、担当課に伝えていただきたい。

【牧谷委員】

「2-9 農業の担い手受け入れ推進事業」について

私自身も農業に関わっている。志摩市のイメージとして海産物や海のイメージが強く、農業のイメージが薄いように思う中で、成果が1人であってもこの数字は大きいと思う。

【岩崎会長】

こういった先行事例も情報発信していただき、続けていくことが重要と思う。

【東川委員】

「2-1 若者の希望を叶える志摩づくり事業」について

「目標値に達しなかったが、効果があった。」と評価しており、目標数値には達しなかったが、効率よく実施し結果が得られたという良い事例と思う。

事業内容やフリーペーパーを見ても、若者目線であり、同世代の私としても共感するものがある。ビジュアル的な出し方についても上手であると思う。

継続していくのであれば、メンバーを入れ替えたり、異なった世代を入れていかないと、目線が凝り固まってしまう恐れがある。例えば、成人式の実行委員会メンバーなども率先して何かをやりたい人たちだと思う。

【岩崎会長】

重要な提言だと思う。意見として受け止めて前向きに検討いただきたい。

【長濱委員】

「2-1 若者の希望を叶える志摩づくり事業」について

「らぶ♥ぼらプロジェクト」事業のボランティアの部分が見えにくいですが、こういった事業内容か。

【事務局】

「らぶ♥ぼら」の「らぶ」が婚活イベント、「ぼら」がボランティアを指している。ともやま公園でシーカヤック等の自然体験を予定している。参加する子どもたちの募集はこれからしていくこととなるが、自然体験をさせるためのスタッフとしてボランティアをしていただくこととなる。

【長濱委員】

素晴らしい取り組みだと思う。

【前田委員】

人口を増やす政策として、出生率を上げる政策や里親制度など子どもの移住政策、国内の他地域から人材を引き寄せる政策、外国から人材を受け入れる政策の4つがある。市としてどの部分を重点的にやっていきたいのか。

【事務局】

人口を増やしていくことが地方創生の目標の重要な1つであると思う。先ほどから意見をいただいている移住や高齢者及び外国人の受け入れなどがある。これとともに、関係人口を増やしていく

ことも大切であると思う。人口減少で失われていく地域内の消費を補っていくことも政策的に強めていきたいと考えている。

【前田委員】

市としては、他地域からの移住者を増やすことをメインでやっていると思うが、都会なのか、志摩市と同程度なのか、限界集落の様な地域なのか、そのターゲットを絞ってやっていくべきである。

待っているだけではダメで、近隣市町にケンカを売ることとなるかもしれないが、婚活イベントなども志摩市の人同士で結婚するのではなく、市外から相手を引っ張ってくるなどをして、少しずつ取り組んでいくことが必要である。

外国人の受け入れについては、いくつかの国に絞ってやっていくことが必要。岐阜県高山市では一つの国に絞って集中的に観光客を誘致したと聞いている。例えばサーフィンをやる人などについては、サーフィン大会でビラを撒くなど、集中してやっていく。成功したら別のターゲットに向かっていくのが良いと思う。

【岩崎会長】

大きな視点での意見だと思う。次の総合戦略の検討をしていかなければならない時期に入ってきている。ターゲットを絞って対策していくことは重要な視点であると思う。次期の総合戦略に向けての意見として受け止めたい。

【長濱委員】

「2-3 移住しやすい志摩づくり事業」について
移住者のネットワークの構築はどうか。

【事務局】

協力していただく方を秋口から募集していく予定である。29年度は、移住施策について実際に移住された方の意見を聞いた。今年度に構築していくこととなっている。

【長濱委員】

移住パンフレットも良くなってきている。さらに踏み込んで、田畑の耕作や釣りができるように、空き田畑や空き港などを示していくなどを提言したい。

【岩崎会長】

この政策分野では、様々な提言をいただいたが、効果としては、審議会としておおむね適正と判断したいがよろしいか。

[異議なし]

《政策分野3「まちの発見」について》

[事務局説明]

【岩崎会長】

情報の発信については進んできているという印象であるが、連携についてはさらなる見直しが必要という検証がされている。

【長濱委員】

「3-2 きらり志摩びと紹介番組放送事業」について

K P I で分母が 258 人となっているが、対象者が 258 人か。他の項目も含めてアンケートを取っているのか。

【事務局】

対象者を一定数抽出し実施しているが、回答があった分を集計している。

【長濱委員】

「まちの発見」という大きな項目で見ると、弱くなっていると思う。志摩市は倭姫の伝説があり、素晴らしい文化・歴史がある。まちの発見に加えてもらえればと思う。

【事務局】

市の方でも、御食国の文化について良さを再発見して、食や観光に関連した事業に結び付けていく取組みを始めている。今後、地方創生の中の取組みの一つとして入れていければと思っている。

【岩崎会長】

狭い意味での地方創生となると文化の視点が抜け落ちがちとなる。総合戦略と地域戦略が連動してより重要なまちづくりがある。総合戦略で拾い上げられない事業については、総合計画の方で参考にしていただきたい。

【東川委員】

市民アンケートの実施方法について確認したい。

【事務局】

住民基本台帳データから無作為抽出し対象者に郵送している。本日、資料として配布できなかったが、集計結果についてはホームページで公開をしている。

【岩崎会長】

同一の人に毎年アンケートを取っているのか。

【事務局】

毎年、無作為抽出している。

【東川委員】

ケーブルテレビは、加入している人しか見られない。抽出した人の中で、行政チャンネルが見られる環境にある人の割合が数値の算定に大きく関わってくる。環境が整っている人の中での数値で

あれば必要性の判断ができると思う。

【岩崎会長】

検証の仕方について、意見を参考に検討していただければと思う。
継続の判断をしているものについても、意見を踏まえていただければと思う。

[異議なし]

《政策分野4「しごとの強化」について》

[事務局説明]

【岩崎会長】

実績報告について詳細な説明が必要であれば、リクエストを含めて意見をいただきたい。

【長濱委員】

「4-1 ふるさと応援寄附推進事業」について
28年度、29年度にどのくらいの寄付があったのか。

【事務局】

28年度については7億8千万円程度、29年度については決算等が終わっていないが、3億6千万円程度となっている。

【長濱委員】

3割ルールや商品券ができなくなったことなどで落ち込んでいるのかと思う。
四季を堪能していただける様に、年4回志摩市のいいものを複数の事業者がまとまって出していくなどを提案したい。

【事務局】

年数回送ることについては、単独の事業者ではあるが既に実施している。複数の事業者で組み合わせた場合に、入ってきたお金の配分については別の形での検討が必要となる。

【岩崎会長】

既に廃止している事業もあれば、見直しをかける事業についてはどれも拡充の方向で見直しをかける判断をしている。
個別の提案については、提案を踏まえながら、事業について充実・強化の方向で検討を進めていただきたい。

[異議なし]

《政策分野5「しごとの創出」について》

[事務局説明]

【岩崎会長】

実績報告について詳細な説明が必要であれば、リクエストを含めて意見をいただきたい。

【齋藤副会長】

「5-6 6次産業化推進事業」について

アカモクについては、「4-7 未利用資源を活用した漁業振興事業」でも取り組んでいる。いずれも見直しの方針を出している。今後継続していくとあるが、具体的にどの施策で実施していくのか。

【事務局】

4-7の未利用資源の部分と5-6の6次産業化の部分で関連が出てくる。収穫する部分を4-7で、これを使って6次産業化を広げていく部分を5-6でやっていく。担当課の方でより広げていきたいといった判断がなされている。

【岩崎会長】

他の分野と比べて見直しの判断が多くされている。長い視野で継続的に取り組んでいく視点も重要でありながら、他方で情勢に合わせて柔軟に見直していくことが重要な政策であるように思う。

[異議なし]

《政策分野6「まちの形成」について》

[事務局説明]

【岩崎会長】

実績報告について詳細な説明が必要であれば、リクエストを含めて意見をいただきたい。

【前田委員】

「6-7 子どもの医療費がかからないまちづくり事業」について

ほとんどの自治体に取り組んでいると思うが、最低な政策だと思う。小児科の医師が減ってきている中で、絆創膏で治ってしまうような怪我でも来院するためコストがかかってしまう。全額無償ではよくないと思う。半額にするとか、1年間医療費がかからなかった場合に奨励金を支払うとかがいいと思う。

【岩崎会長】

全国的な方向がある中で、難しい問題である。医療費がかからない事業として打ち出すのか、子どもの健康づくりとして打ち出すのかで工夫ができると思う。志摩市の子育てについて何をPRしていくかで検討いただければと思う。

【内田委員】

「6-1 伊勢志摩国立公園の魅力向上事業」について

国立公園行政として非常に重要な取り組みであると思う。広く市民を巻き込めるように検討いた

だきたい。

【寺口委員】

「6-2 賢島の魅力発信力向上事業」について

30年度は観光客向けマップ作成等を実施していくこととしているが、29年度は何ら動きがなかったのか。

【事務局】

29年度は事業の案出しのために地元等との話し合いを進めていったが、事業としての実施には至らなかった。

【長濱委員】

「6-3 地域の特色を生かしたスポーツのまちづくり事業」について

志摩市は豊かな海を擁しており、釣り大会などはアピールとなると思うが追加はできないのか。

【事務局】

この事業については、前年度に募集をかけて要件を満たしている事業に対して、実施年度に予算化がされていくこととなっている。釣り大会についてはあがってきていないが応募すれば採択の可能性はあったということとなる。

【長濱委員】

「6-6 これからの志摩市の地域交通検討事業」について

磯部町でデマンドバスが走っており、浜島町でも検討されている。私の住む志摩町では、交通や買い物、通院に関して不便な状況であり、検討してもらえないか。

【事務局】

志摩市地域公共交通網形成計画の策定を29・30年度で行っており、現在、各地区の住民懇談会を開催している。自治会長に話をさせていただき、1か所で開催の予定である。この時に意見をいただきたい。

【岩崎会長】

まちづくりに関する地域の自主的・自発的な取り組みがあつてこそだと思ふ。行政としても適切にニーズを汲み取りながら、事業の見直し等をかけていただければと思ふ。

[異議なし]

【岩崎会長】

議事進行の勝手際もあり、説明を端折ったり、発言を躊躇させてしまったりとお詫び申し上げたい。差し控えてしまった提案について後日事務局に提示いただければと思ふ。

事項書3. 議事（2）その他

【岩崎会長】

志摩市の地方創生について、意見・発言をいただきたい。個別の提案については、事務局に声をかけてもらえれば、担当課に繋いでいただける。時間も限られているため、1人1・2分程度でお願いしたい。

【牧谷委員】

県外の人がわざわざ志摩市に来て農業をするということはすごいことである。そういった方と繋がるなどしてサポートしていきたい。

【内田委員】

短期間では効果が出にくいものもあり、腰を据えてじっくり取り組んでいく事業が多いという印象を持っている。伊勢志摩国立公園のテーマが、自然と人の営みとの調和である。環境省では国立公園満喫プロジェクトを進めており、訪日外国人の数を増やして観光振興を進めていく取組みであり、横山の整備もその1つである。こうした取組みが、環境保全や観光振興などで地方創生に資するのではないかと思う。総合戦略に基づく取組みがブラッシュアップされ着実に進められて、地域の豊かな暮らしが持続されていくことを期待している。

【舟戸委員】

阿児町在住であるが、子どもたちの減少を感じている。赴任している浜島小学校では、100人しか児童数がなく、来年度は100人を切る見込みである。子どもたちが元気に育って行って、志摩市で仕事がしたくなるような政策をしていただければと思う。子どもたちが放課後に元気にスポーツができるようなものも考えてもらいたい。高齢者が健康で永く活躍できるようなまちにもしてもらいたい。

【上村委員】

ちょうど10年前に大王町で仕事をしていた。その頃は6万人ぐらいの人口があったが、9千人ほど減ってきている。我々もいくつかの事業に関与している。人口は下支えというが、それを支えていく事業のサポートを少しでもできたらと思う。

【清水委員】

私は桑名市の出身であるが、若いころの志摩市は別格のような魅力があったイメージがある。魚釣りなど毎年のように来ていた。志摩市のためにお役に立てればと思う。遠い所に住んでいる人から見ると非常に魅力のある素晴らしいまちであると思う。

【尾間委員】

賢島の魅力発信力向上事業へは、当初、地元金融機関として2回参加したことがある。本来であればもっと回数があるはずであったが、賢島の事業者が1回目よりも2回目に減っていき、3回目にはゼロになるのではないかと担当者が嘆いていた。サミット後の賢島の落ち込みを危惧し、市が金融機関や近鉄などを集めてワークショップを実施したのであるが、結果として地元の参加者が少なく、オブザーバーの方が多くなってしまっていた。こうした状況から、市の方で合意形成してか

ら再度開催できるようにもっていききたいとのことであったということ捕捉します。

【米澤委員】

他の2つの地域での委員をしていた経験を踏まえての感想であるが、志摩市は細かく事業の検証をされている。ハローワークとしてこの事業の中で協力できる事業もいくつかあり、個別に話をしたい。今後に向けては、雇用が専門であるが、志摩市は雇用の部分が非常に弱いと思う。例えば、ホームページについては、雇用の項目が薄いと感じている。志摩市は他の県南部の市町と比べて、従業員が何百人規模の大きな企業が存在している。地元の人が県外に行かずとも就職できる。あるいは、これらの大きな企業は大卒者の募集もしているので、他所から人材をつれてくるという方法もあるので、こういったことも参考に新しい事業を考えていただければと思う。ハローワークも協力する用意もあるので検討いただけたらと思う。

【東川委員】

当初から審議会委員として関わらせていただいている。私の仕事も市内の各所に行って色々な情報を伝えるという立場である。やり方は異なるが地方創生の意味合いをもった仕事であると感じている。国立公園内に住んでいる意識が低いのは発信力の弱さからではないかと思う。せっかく良い事業をやっているのだから、市民に対して発信していく必要があると思う。市だけに原因があるのではなく、一委員としても必要であれば話をするようにしているが、マイナスの発信はタブーだと思う。各事業を理解した上で何かしていきたい。志摩市民の地元愛は他地域より強いと感じている。地方創生の結果が長い目で見れば出てくる地域だと思っている。

【岩崎委員】

志摩市には仕事で何回か来たことがある。来るたびに自然がきれいで食べ物は美味しいし、いいまちだと思う。いろいろ課題があるとは思いますが、いいところを活かしていければ良くなっていくと思う。初めての出席で提言ができなかったが、弁護士の立場から提言ができればと思う。

【井上委員】

子どもの医療費について、志摩市で窓口の無料化が決まったが、未就学児に限られている。事例として、一人親家庭で母親が働かなければならない家庭があり、財布に500円しか入っていない中で、子どもを歯医者に連れて行かなければならないことがあった。永久歯への生え変わりは就学後となる。窓口無料化の年齢の引き上げをお願いしたい。

【寺口委員】

地方創生事業の中間点の私なりの評価は、30年度以降の見込みの欄が、A評価（大きな効果が期待できる）が2項目のみとなっている。さらにA評価が増えていくように頑張してほしい。

【前田委員】

優秀な人が役所の中にたくさんいると思う。専門的に詳しい職員がいてもそれを活かすことができない部署へ配属されているケースがある。1年に1回でもいいので他部署へ改善点等の意見を出せるようにしてほしい。目からうろこの意見も中にはあると思う。

【長濱委員】

人口ビジョンを見たがかなり厳しい。何とか（将来人口に及ぼす社会増減の影響を）パターン6にできればと思う。

提案であるが、30年度の総合戦略では、市民が主体となることに主眼を置いている。市民が主体となっていくためには、議会のリアルタイム放送をすれば市民の参加意識も高まるのではないかと。

若者のアンケートにも出ているが、医療が弱いのがかなりネックになっている。長期的なビジョンで話し合われていない。医療に関する6か年計画を策定すべきと思う。例えば、医師になりたい学生を6年間かけて育てていくことは松阪市が取り組んでいる。産婦人科医や小児科医など24時間の救急医療体制がしっかりと確立できるようにすれば、移住者や市民も安心できるのではないかと。

人口ビジョンの中で、20～39歳が市外に出てしまう社会減となっている。伊勢志摩大学を創設し、地球生態系と人との共生していける社会を目指して、世界的に最先端の教育を志摩市で行っていく。学園都市計画も策定して長期的な視点で取り組んでもらえればと思う。

全体的にいい取組みがなされているので希望を感じている。

【齋藤副会長】

本来、会長を補佐する立場でありながら、会長にすべてお任せしてしまい申し訳なく思っている。

人口または関係人口を増やすといった点でも施策が充実していると思う。例えば、2-8の「若者世代の移住促進事業」では、中学校卒業前の子どもを持つ世帯の移住を促進する点で、実施にこういった使われ方がされているかどうかかわからないが、300人を超える事業所がたくさんある中で、イオンなどの企業へ未就学児を持つ社員が来た場合に家賃が負担できるのかなどを考えていくと、住めば都と昔から言葉があるように、とにかく住んでもらうことで、そこに慣れや順化が起こることで将来的に人口減少の解決の糸口になるのではないかと。人口を呼び込む、定住させることの施策が盛り込まれているので、是非引き続き取り組んでいただければと思う。

【岩崎会長】

1年間会長を務めさせていただいた。議事の不手際で皆様にご迷惑をおかけしお詫び申し上げます。資料2の効果検証シートのも目標値として、年間で設定されている場合と、5年間の延べで設定されている場合とあるが、そのこの区別に関わりなく、目標値から見て今の実績値を評価している。これではどこまで進んできているのかを市民に示すことができない。効果検証もまだ不十分ということになってくる。どこまで進んだかを市民に提示しながら、市民の協力を得て進んでいけるように工夫してほしい。期待しているのでお願いしたい。

[議事終了]

事項書4. その他

[事務局からの事務連絡]

以上